



Web版

絆

23

人と動物が共生できる社会づくりのため地域に密着した動物愛護の普及啓発活動ニュース

人と動物の共生と福祉を目指して

紙面版にも
他支部掲載

動物愛護教室 実施報告

筑紫 支部

日 時 令和6年8月22日

場 所 春日市立春日小学校

参加者 児童21名 他12名

- 内 容 :
- (1) 保健所のお仕事紹介
 - (2) 犬との接し方
 - (3) 「さくらねこ」と「ワンヘルス」について
 - (4) ワンヘルスクイズ
 - (5) 工作（ガラススタイルのコースター作製）

※終了後に生徒全員に修了証書等を交付

昨年度に引き続き、ぬいぐるみを使った「犬との接し方」の実演を行いました。

また、今回初の試みとして、「さくらねこ」の話から「ワンヘルス」に話を広げ、その後「ワンヘルスクイズ」を行いました。「さくらねこに込められた思いを知った」「ワンヘルスの大切さがわかった」といった感想があり、楽しみながら動物との正しい付き合い方を学ぶことができたようです。



嘉穂・鞍手 支部

日 時 令和6年度

場 所 管内の小学校

対 象 小学生

福岡県動物愛護推進員と協力し動物愛護教室を開きました。昨年度非常にご好評をいただきましたので、本年度は実施回数を更に増やし、管内多数の学校にお伺いする事が出来ました。

生徒のみなさんには、講習や動物との触れ合いを通じ、動物を飼うことの責任、人や動物に対する思いやりの気持ちと命を大切にすることについて学んで頂きました。



生徒の皆さんも熱心にお話を
聞いてくれています



犬との触れ合い方を実践。
大きなぬいぐるみが生徒さんに好評でした。



モルモットとの触れ合いに
生徒さんも大喜びです。

ペットの災害対策

～飼い主として備えておくこと～



災害は突然起こります。

飼い主とペットがともに無事に災害を乗り越えるためには、
日ごろからの備えが欠かせません。

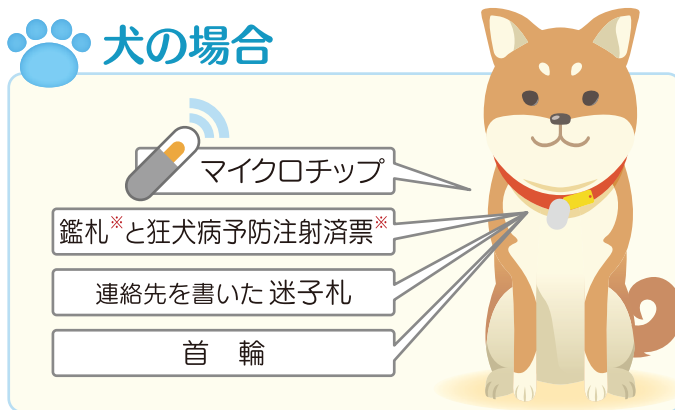
近年の災害を参考に、災害に備えて飼い主がどのような
対策をとればよいのか考えておきましょう。

日頃からの災害への備え スムーズな同行避難のために備えておくこと

逸走の防止と所有者明示

- 災害発生時には、ペットもパニックになって逃げだすことがあるため、首輪や鎖などの点検をしておきましょう。
- ペットが迷子になった場合に備えて、首輪などに**鑑札**※や**狂犬病予防注射済票**※、連絡先を書いた**迷子札**を装着しましょう。**マイクロチップ**の装着は、損傷や脱落などがなく、飼い主を確実に特定できるととても有効な方法です。

犬の場合



猫の場合

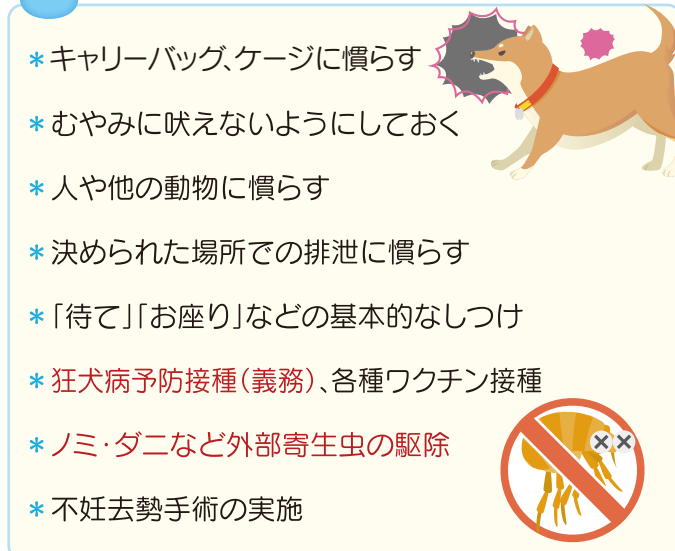


※犬は狂犬病予防法により装着が義務付けられています。
お住まいの市町村によっては、マイクロチップが鑑札とみなされる場合があります。

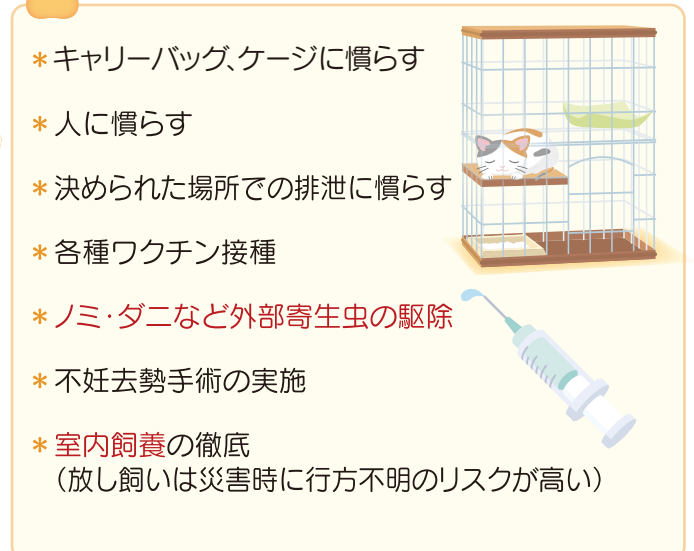
健康管理としつけ

- 災害はペットにも大きなストレスとなり、避難所で生活することになれば、さらにストレスが増してペットが体調を崩すことがあるため、日頃から**健康状態に注意**しましょう。
- **しつけをしておく**と、ペットのストレス軽減だけでなく、避難所での生活で他の人への迷惑防止につながります。
- 望まない繁殖を防止するため、**不妊去勢手術を実施**しておきましょう。不妊去勢手術により、性的ストレスの軽減、感染症の防止、無駄吠えなどの問題行動の抑制効果もあります。

犬の場合



猫の場合

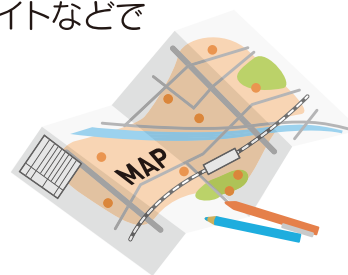


ペット用の避難用品や備蓄品の準備

- 避難所では人に対する準備はされているが、**ペットに対する備えは基本的に飼い主の責任**であり、支援物資が届くまでには時間がかかるため、日頃から必要な物資の備蓄をしておきましょう。**(備蓄品リストは最後のページに掲載)**

同行避難所、避難経路の確認

- 避難する場合に備え、ペット同行避難訓練への参加、ハザードマップや市町村の地域防災計画、災害時の避難地やペットを同行できる避難所の所在地などをウェブサイトなどで確認し、**避難所までの安全な避難ルート**を把握しておきましょう。
- 避難地や避難所に**ペットを連れていく際の注意事項**について、あらかじめ市町村に確認しておきましょう。
- 避難所での飼養の他にも、親族や飼い主同士のネットワーク、友人など、**複数の一時預け先を確保**しておきましょう。

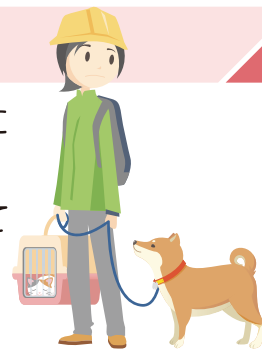


- ! こんなケースも…** ワクチンを接種していない、吠えるなどの理由で**避難所への受け入れを拒否**されることがあります。受け入れ体制、条件については必ず事前に確認を!

災害発生時の対応 慌てず、落ち着いて、ペットと同行避難

ペットとの同行避難

- できる限り飼育しているペットと同行避難し、自宅に置き去りにしないようにしましょう。
- 大型の動物など、避難所への同行が困難である場合は、あらかじめ確保している一時預け先に預けましょう。



犬の場合

- * リードをつけ、首輪が緩んでないかを確認
- * 小型犬はリードを付けた上で、



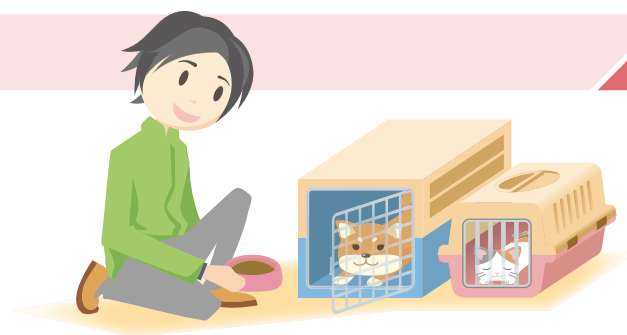
猫の場合

- * キャリーバッグやケージに入れる
- * キャリーバッグ等の扉が開かないようにガムテープなどで固定する



避難所における飼養管理

- 避難所の飼育ルールに基づき、**飼い主自身が飼育管理**を行いましょう。
- 咬傷事故**や飛びつきなどにより怪我人が出ないように注意しましょう。



日頃の準備

逸走の防止と所有者明示

- ☐ 首輪や鎖などの点検
- ☐ 鑑札^{*}、狂犬病予防注射済票^{*}の装着
- ☐ 迷子札、マイクロチップの装着

※犬は装着が義務付け
お住まいの市町村によっては、マイクロチップが
鑑札とみなされる場合があります。



健康管理としつけ

- ☐ 予防接種やノミ・ダニなど外部寄生虫の駆除
- ☐ キャリーバッグ、ケージに慣らす
- ☐ 決められた場所での排泄
- ☐ 人や他の動物に慣らす
- ☐ 「待て」「お座り」などのしつけ



ペットの避難用品の準備

優先順位① ペットの命や健康に係るもの

- ☐ 療法食、薬(7日分以上)
- ☐ フード、水(7日分以上)
- ☐ 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ☐ キャリーバッグ、ケージ

優先順位② ペットの情報を記録したもの

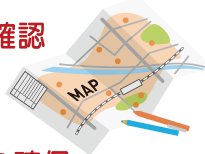
- ☐ ワクチン接種状況、既往歴、健康状態、かかりつけの動物病院
- ☐ ペットの写真

優先順位③ その他のペット用品

- ☐ ペットシート、トイレ用品、タオル、ブラシ、おもちゃ など

同行避難所、避難経路の確認

- ☐ 避難所までの安全な避難経路の把握
- ☐ ハザードマップなどで危険な場所の把握
- ☐ 同行避難受け入れ条件などの確認
- ☐ ペット同行避難訓練への参加
- ☐ いざというときの一時預け先の確保(親族、友人)



災害発生時の対応

ペットとの同行避難

- ☐ 犬: リード装着(首輪の緩み確認)
- ☐ 猫・小型犬: キャリーバッグなどで運搬

避難所における飼養管理

- ☐ 飼い主自身による飼育管理
- ☐ 咬傷事故などに注意
- ☐ 周りの人へ十分配慮する

ペットに関する災害時の対応についてより詳しく解説した
「福岡県災害時ペット救護マニュアル」はこちら→



犬との暮らしにおける日頃の備え

普段からやっておきたいことチェックリスト

以下は愛犬がいつでもどこでもできるように日頃から習慣にしておきたいことの最低限のリストです。できることにチェックマークを入れられなかった項目がある場合は、いざという時に出来るだけスムーズに且つストレスが少なくできるように平時のうちに愛犬と練習しておきましょう。

- ☐ いつでもどこでも食べる＆飲むことができる
- ☐ いろんなタイプの知育トイを使い慣れておく ※
- ☐ クレートに入ってリラックスできる
- ☐ ひとりで寝ることができる
- ☐ トイレシートで排泄ができる
- ☐ 屋外で排泄ができる
- ☐ 身体を清潔に保つためのお手入れを受け入れることができる
- ☐ 車の中でクレートに入っている
- ☐ マナーパンツやマナーベルトの装着ができる
- ☐ 飼い主以外の人のお世話を安心して受け入れることができる



※ 知育トイについては絆「第22号」をご覧ください

クレートのすゐ

クレートを使うことには以下のようなメリットがあります。

1. 安心安全な休息場所として

落ち着ける安全地帯があることは犬ばかりでなく人のストレス軽減にも繋がる。

(多頭飼育の場合はそれぞれの犬にクレートを用意する)

2. いたずらや事故防止のために

掃除や来客時など戯れられると困る時や犬から目を離す際に誤飲などの事故予防のためにクレートにいてもらうことでお互いに安全に過ごしやすいになる。

3. 排泄成功の助けとして

犬は本能的に休息場所で排泄をしないため、排泄タイミングの少し前に短時間クレートにいてもらうことでその後の排泄を促しやすくなる。

4. 安全な乗車のための必須ツール

車内で犬がうろうろすることや運転手の膝の上に乗せるのは危険。安全のために犬には固定したクレートに入ってもらおう。扉や窓を開けた時の犬のとび出しを防ぐことにも繋がる。

5. 非日常時の犬の一時的な居場所となる

旅行先などで必要に応じて使い慣れたクレートを使用できるとお互いが快適に過ごすことができる。クレートを使うことに慣れていることで災害などの緊急時でも犬に安心を提供しやすくなる。



そもそもクレートって何？

犬の居場所管理の道具は、クレートの他、ケージやサークルなどがあります。
それぞれの違いを簡単におさらいしてみましょう。

●クレート

プラスチックでできているものが多く、上下に分割ができるものや折りたためるものがある。
大きくなると重量が増すが、頑丈。
安全性は高い。
飛行機対応のものもある。
扉のほかに上部に蓋があるものもある。
側面にはスリット窓がある。



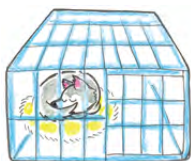
●ソフトクレート

布製で軽く折り畳みができるので携帯に便利だが、トレーニングが不十分な犬の場合は内側からファスナー部分を壊したり側面を破ったりすることがあるので、すでにクレートを使い慣れている場合にのみ使用を勧められる。
犬が中で動いてもクレート自体が動かない骨組みがしっかりとしたものを選ぶこと。
メッシュ部分もあるが通気性は良くないので夏場は注意が必要。



●ケージ

金属製ネットの小さな檻のイメージ。折りたたみができる。頑丈で重量がある。
犬が外から丸見えになるので、寒さや日差し、周りの視線から犬を守るためにカバーをかけるなどの対応が必要なことがある。
床面が網のものの場合はマットなどを敷き犬が足や爪を痛めないようにする。



●サークル

素材は金属、プラスチック、木材など様々。
天井がない囲い。
休む場所、遊ぶ場所、排泄場所などを囲って管理するために使うことができる。
1面ずつを繋げることで必要な広さを確保できる。携帯用の折りたたみ式のものもある。
市販のもの他、手作りする方もいる。
犬に合わせた高さが必要。



クレートの大きさの選び方

犬がクレートの中で立ち上がったたり伏せたり向きを変えることができる広さがあること。
車で使う場合は揺れても犬が安定するぴったりのサイズがおすすめ。

クレートトレーニング

飼い主の合図で犬自らがクレートに入り、扉を閉められて人が離れても犬はリラックスしてそこにいられるようにするための練習をクレートトレーニングといいます。

こちらではそのトレーニング方法の一例を紹介します。

準備と約束：

- 🐾 犬の好きな食べ物を小さくちぎってすぐに取り出せるようにポケットやポーチに入れておく
- 🐾 正解の合図を決める(ここでは「グッド」を使う)
- 🐾 グッドの後は食べ物をひとつ犬にあげる
- 🐾 クレートに入る合図を決める(ここでは「ハウス」を使う)

※「 」は、声に出す言葉



ここを押すと
動画がみれるよ!!

動画内での合図は各家庭により
違いますのでご了承ください。





練習手順：ステップ1 ～ ステップ10



ステップ1:クレートの存在に慣れる

クレートに近づいても平気になったら練習スタート!



ステップ2:クレート内のトリーツを食べる

犬が扉を気にする場合は、まず扉を外すか、開けたまま動かないように固定する。

クレート内に食べ物を転がす。

手前側から徐々に奥へ入れ、犬に食べてもらう。

犬は食べた後クレートから出て構わない。

犬のお尻を押したり、扉を閉めて閉じ込めたりしない。

後ろ足まで入るようになったら、犬が出てくる前にクレート内に食べ物を連続的にひとつずつ転がして食べてもらうとクレート内に留まることを選択してもらいやすくなる。



ステップ3:食べ物での誘導から、犬自らがクレートに入ることへ移行

犬がクレートから出た後に犬自ら再びクレートに入ったら「グッド」。

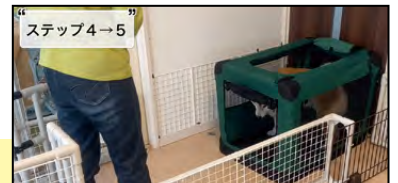
その後すぐに食べ物をクレートの中に入れる。



ステップ4:合図をつける

ステップ3で犬が積極的にクレートに入るようになったら、犬がクレートから出ている時に「ハウス」。

その後、犬がクレートに入ったら「グッド」で食べ物をクレート内に入れる。



ステップ5:クレート内に留まる

犬がクレートの中にいるうちにタイミングを徐々に遅らせながら「グッド」+食べ物をクレート内に入れる。

(ステップ2の最後と同様)犬にクレートから出てもらう時は、犬を外へ呼び寄せる。

(クレートから出る合図を作る)



ステップ6:扉を少しずつ動かす

犬がクレートの中にいる状態で扉をほんの少し動かして「グッド」+食べ物。

繰り返しながら扉を少しずつ大きく動かしていく。

(犬がリラックスしたままでいられる程度に。特に扉を気にする犬は慎重に行う。)

扉を動かした後には扉を開けて、犬がすぐに出られるようにする。

開けても犬がクレート内に留まっているなら「グッド」+食べ物。

犬がクレートから出た場合は、その前の扉の刺激が大きすぎたかもしれないので、次はほんの少し動かすなど刺激を小さくする。

犬の行動を観察しながら、再び少しずつ大きく動かしていく。



ステップ7:扉を閉める

扉を大きく動かした後でも犬がクレートに留まっているようなら扉を閉めて「グッド」。
その後すぐに扉のスリット越しに食べ物を入れる。
すぐに扉を開けて、何度かクレート内に食べ物を転がし、それらを犬に食べてもらって、合図でクレートから出してもらう。
(扉を開けると即飛び出すことを防ぐ目的)



ステップ8:扉を閉める時間を延長する

扉を閉めている間に何度かに分けて食べ物をクレート内に入れる。
閉めたままでも犬がリラックスしていること。
少しずつ閉めっぱなしの時間を延ばしていく。



ステップ9:人がクレートから離れる

ステップ8で人が近くにいる状態でリラックスしているようなら、
少しずつ人が離れる距離や時間を延ばしていく。



ステップ10:いろんな状況で練習

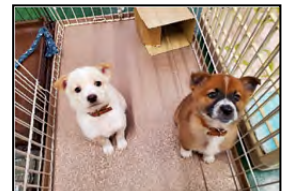
人の食事中、掃除中、乗車時、お出かけ時、宿泊時などなど。
いろんな場面で積極的に使っていく。
家でも扉を閉じて使うことを積極的に行うことで犬も人もクレート使用が当たり前になる。
クレート内で知育トイで遊べるようにするのもおすすめ。
留守番時など2時間以上の長時間クレートに入れっぱなしにすることはしない。
長時間になる場合はサークルと併用することをすすめる。

トレーニングのコツ：

- ★ 練習中は犬がリラックスしてる状態であること。
うまくいかなかったら、そのまま続けず、犬が簡単にできるステップまで戻る。
- ★ 犬が集中できる環境で1～3クール続けて終わる。1クール：練習(30秒～2分程)、休憩(30秒～1分程)
- ★ 練習は数日～数週間かけて行う。

トレーニング成功のために：

- ポジティブな体験を積み重ねる
- クレートをお仕置き場所として使わない
- 犬のペースを重視する
- 練習が難航する場合は早めにプロに相談する



クレートの使い方応用編

- ❖ 特に小型犬はクレートに入れたままでの持ち運びの練習を少しずつ行う。
中型犬以上でも、台車などの移動の練習をしておくより良い。
- ❖ 扉を開けてすぐに犬をクレートから出すのではなく、必ず合図で出してもらうことで事故予防に繋がる。
- ❖ サークル内でクレートを使うことで、スペースの活用がしやすくなる。



人と動物の間を行き来することができる 病気があることを知っていますか。

～人獣共通感染症～

Nさんのお家では、子猫を保護したことから、その家の人と猫が「皮膚糸状真菌」という同じやっかいな病気にかかってしまい、大変な思いをしました。Nさんは、自分の家族や猫を守るためにも、人にも動物にもうつる病気についてもっと知り、動物との関わり方に十分気をつけなければと思っています。

人獣共通感染症について

「人と動物の間を行き来することができる感染症(病原体＝病気を起こす小さな生物＝が体に侵入して症状がでる病気)」のこと。

人と動物双方に感染する共通感染症で人の感染症の約60%を占める。

原因となる病原体は細菌・ウイルスのほか、真菌、寄生虫など多数存在します。

人獣共通感染症は どうやってうつるの？

病原体をもった動物に…

咬まれる

口の周りや傷口をなめられる

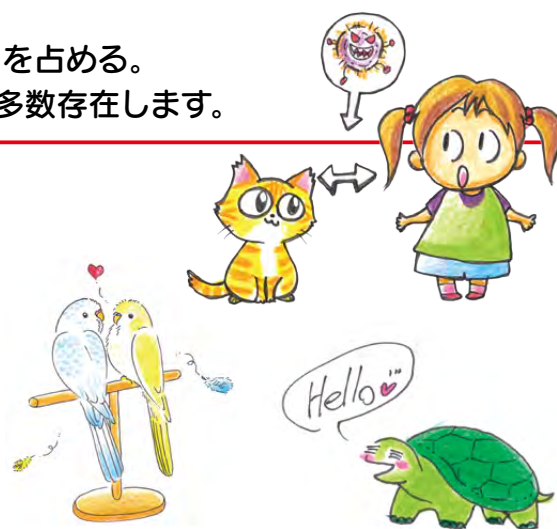
引っかけられる

咳やくしゃみを直接受ける など

その他にも…

動物にさわってフンなどで汚れた手を口にもっていってしまう

ダニや蚊を媒介してうつる など



こんな病気があります

- ・狂犬病
- ・パストレラ症
- ・猫ひっかき病
- ・皮膚糸状菌症
- ・オウム病
- ・SFTS
- ・ライム病
- ・ジカウイルス感染症
- ・デング熱
- ・腸管出血性大腸菌感染症
- ・カンピロバクター症
- ・Q熱
- ・高病原性鳥インフルエンザ
- ・レプトスピラ症
- ・サルモネラ症

こんな症状がでます

病気の原因によって異なりますが、

- ・発熱・頭痛・悪寒・筋肉痛

といった風邪のような症状

- ・下痢・腹痛などの症状

- ・毛髪の脱毛・かゆみ・発疹 など皮膚に表れる病気

※無症状や軽症の場合もあります。



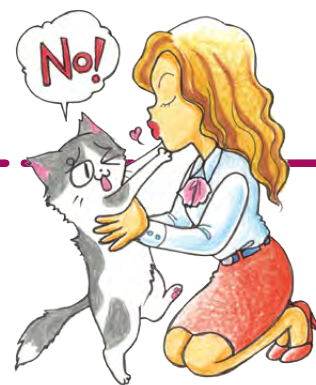
もっと詳しく知りたい時は

厚生労働省

「動物由来感染症を知っていますか」



感染症をむやみに怖がる必要はありません！
でもお互いを守ることも大切です。



お互いの守り方

- ・過剰なふれあいはひかえましょう。
(口移しやキスはしない、食器や箸を一緒に使わない、など)
- ・排泄物は早く処理しましょう。
- ・掃除や換気はこまめにしましょう。
- ・爪切りやブラッシングなどお手入れをしましょう。
(そのためには普段からのしつけも大切)
- ・動物も人も、様子が変わる…とおもったら早めに医療機関を受診しましょう。
- ・飼い主のわからない動物は触らないようにしましょう。
- ・砂場や公園で遊んだり、草むしりや土いじりをした後は、十分に手を洗いましょう。



犬や猫から咬まれたり引っかけられたりしないように、動物の習性を知って
触れ合うことが大切です。

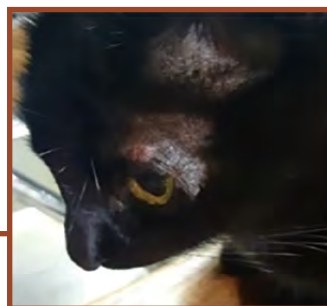
かわいい動物ですが、人間とはちがった病原体をもっていることを理解し、
節度ある接し方を心がけましょう。

一緒に暮らす動物を愛しいと思う事や、外で暮らす野良猫などに心を寄せる
気持ちはとても大切です。

動物も自分も幸せであるためには、お互い健康も守っていきましょう。



参考になるWebサイトの紹介
福岡県ワンヘルス
ポータルサイト



Nさんのお家で起こったこと

自分の家の庭を数日さまよっていた子猫を見るに見かねて保護したNさん。

動物病院でノミや寄生虫がいないか診てもらい、その後、Nさんの家の猫と少しでもケージ越しに
対面させていました。子猫は新しい飼い主さんとの出会いがあり引き取られていきましたが、その
後、猫たちの顔に異変が現れました(写真)。動物病院でもすぐに原因がわからず困っていると、Nさ
ん自身の頬に真菌症の症状が現れました。そのことを動物病院に告げ、猫たちも真菌症を疑い投薬
をはじめました。1ヵ月近くの投薬でしたが、症状は回復しNさんも猫も元気になりました。

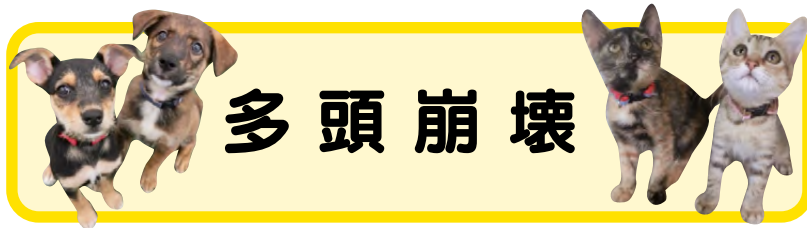
部屋の掃除や長い期間の投薬は本当に大変でした。

あらためて原因を考えると、子猫のしっぽの付け根が妙に細くなっていたことを思い出しました。

はっきりはわかりませんが、それが原因だったのではないかとNさんは考えています。

Nさんの家で人と猫が同じ病気にかかった例をご紹介します。





多頭崩壊

時々ニュースで見る「多頭崩壊」。
福岡県内でも毎年耳にします。
大事になる前に、ナニか手を打てなかったのか？
誰もが思う事でしょう。

子犬子猫が生まれるたびに、新しい飼い主を見つける。
これだけのことが、簡単にはいかないのが現実です。
増やさないために不妊手術をするには、お金がかかります。

1匹2匹なら費用負担出来ていたことでも、貰い手が見つからなかった子犬子猫も生後6ヵ月頃には妊娠出来るようになり、5匹6匹と増えていくと、不妊手術費用が重くのしかかって来ます。
手術費用の工面が追い付か無くなれば、あっという間に増えていき、飼い主の生活が困窮していくことにも。

子犬子猫が生まれないように不妊手術をしても、多頭崩壊を起こすことがあります。
捨てられている犬や猫を、かわいそうだからと家に連れて帰ることで、飼育する犬猫の数が増え、お世話が行き届かなくなったり、飼い主の病気やケガなどで入院や施設への入居が必要になった時に、犬猫の行き場が無くなるということもあります。
多頭崩壊は犬猫はもちろん、飼い主も不幸にします。

不妊手術をして増やさないようにすることはもちろん、自分でお世話出来る頭数以上に増やさないこと。
それから「もしも」の時に、犬猫をお願いできる人や施設を探しておくことをお願いします。

自分でどう探せば良いのか分からない時は、お住まいの地域にある保健福祉環境事務所(保健所)へ相談すれば、動物愛護推進員やペット飼育支援アドバイザー等を紹介してくれます。ご活用ください。

多頭崩壊危険度チェック



- ☐ 2頭以上のペットがいる
- ☐ 不妊去勢手術をしていない
- ☐ 捨て犬・捨て猫を見つけると、放っておけない
- ☐ 保護した犬猫に新しい飼い主を見つけられない
- ☐ 犬猫にお金がかかって、貯金ができない
- ☐ 犬猫を預けられる相手や施設がない、頼れる人がいない
- ☐ 自分に持病がある
- ☐ 自分が高齢である
- ☐ 一人暮らし



2つ以上チェックがついたあなたも
「多頭崩壊予備軍」です

1つでもチェックが減るように、頑張りましょう!